2025 年 6 月6日

各 位

会 社 名　株　式　会　社　エ　ル　テ　ス
代表者名　代表取締役社長　　菅原　貴弘
（コード番号：3967　東証グロース）
問合せ先　経営戦略本部　本部長　　伊藤　豊
(TEL. 03-6550-9280)

2025 年2月期　株主総会 FAQ

日頃より、当社にご関心をお寄せ頂き誠にありがとうございます。2025 年 5 月 29 日開催の株主総会について、事前質問でお受けした質問や当日頂戴した質問に加えて、想定されるご質問に対する回答をご参考として開示するものです。回答内容については、時点のずれによって多少の齟齬が生じる可能性がありますが、直近の回答内容を最新の当社方針として回答を記載しております。

■関連資料

株主総会関連資料：https://eltes.co.jp/ir/library/meeting

■FAQ

Q.重要な経営指標として、ROE を採用していない理由はなぜでしょうか？

＜回答＞

ROE は「売上高純利益率」「総資産回転率」「財務レバレッジ」に分解できると理解しています。当社グループは複数の事業を展開しており、資産の運用状況が複雑なため、総資産回転率を一律に評価することが難しい状況です。また、高い成長を見据えた M&A 戦略の一環として、他人資本を積極的に活用していることから、現在は収益性の向上を最優先とし、営業利益を最も重要な指標と位置づけています。そのうえで、営業利益の向上が ROE の改善にもつながると考えております。

Q.大株主であるラック社が KDDI 社に TOB されたが、エルテスに影響はないのか

＜回答＞

大株主であるラック社は、株主であるとともにデジタルリスク事業の成長を牽引する内部脅威検知サービス（Internal Risk Intelligence）の重要なビジネスパートナーです。現段階においては、資本関係や内部脅威検知サービスにおける協業関係に変更はないと認識しております。

Q.自己資本比率が低下している中で、今後の資金調達方法をどのように考えているのでしょうか？

＜回答＞

2025 年 2 月末の自己資本比率は 24.7%であり、経営課題として認識しております。一方で、EBITDA としては、2025 年 2 月期は 6 億円の実績を有し、2026 年 2 月期は 7.5 億円を計画し、今後事業収益による資本の積み上げを見込んでおります。また、グループ会社の AIK、JAPANDX はそれぞれで外部からの資金調達も行っており、グループ全体ではデットファイナンス、エクイティファイナンス両面での資金調達を検討してまいります。

Q.株主優待の Quo カードは利用範囲が限られるため、Quo カード Pay なども検討してほしい

＜回答＞

貴重なご意見ありがとうございます。SNS などにおいても、株主の皆様から Quo カードの利用範囲に関するご意見を頂戴していることを認識しております。株主の皆様にとって、より魅力的な株主還元について議論し続けてまいります。

Q.株主総会のオンライン化などの検討はあるのでしょうか？

＜回答＞

現時点においては、費用面を考慮してバーチャル株主総会開催は前向きな検討を行っておりません。しかしながら、平日かつ東京開催という点で、参加が難しい株主の方もいらっしゃることは重々承知しておりますので、まずは株主総会 FAQ などの情報発信等を通じて、当社の魅力度向上に取り組んでまいりたいと考えております。

Q.就任したアドバイザー・顧問の目的・役割について、PR 目的の登用がないのか教えてほしい

＜回答＞

アドバイザー・顧問に関する PR 情報は、それぞれの取り組みを加速させていく中で、重要な情報であると判断し、公表しております。なお、直近のアドバイザー・顧問の方々に関して、具体的な目的・役割は以下に記載の通りでございます。

カミロ・サンドバル氏については、市場変化が激しい AI 市場において最先端であるアメリカ市場の情報を収集し、AI シールド構想の事業開発のスピード・質を高めるための参画です

髙瀬氏はデジタルリスク事業の内部脅威検知サービス（Internal Risk Intelligence）が、さらなる成長を実現するために、ターゲット企業であるエンタープライズ企業へのネットワーク構築などの営業・マーケティング手法のノウハウ蓄積を目的に参画いただいております。

滝川氏については、DX 推進事業における自治体営業の支援として参画いただき、エルテスグループ社員とともに、自治体開拓に取り組んでいただいております。

Q.過去の IR 情報として発信された取り組みの進捗が見えづらい

＜回答＞

株主の皆様への情報発信に大きな余地があることは、当社としても承知しております。2025 年 3 月のタイミングで専任の IR 担当者を設置し、2025 年 6 月からは IR 広報専属チームを発足いたしました。今後は、プレスリリースやオウンドメディア「エルテスの道」を通じて、株主の皆さまへのより透明性のある情報発信に取り組んでまいります。

Q.AI シールド構想の具体的な計画を教えてほしい

＜回答＞

現在、社会的にも注目が集まっている AI 技術、特に生成 AI 技術は、革新的な技術として多くの企業に普及する一方で、学習データによる権利侵害や情報漏洩リスク、ハルシネーションなどが懸念されています。これは、SNS が普及した当時に SNS 炎上等に対する懸念が未知なるリスクとして、企業活動に影響を与え、当社サービスが広がった状況に酷似していると考えております。

このような状況から、安全なデジタル社会の実現を目指して、生成 AI 活用のための研修・ルール策定、AI Agent を可視化するリスク管理プラットフォーム等のサービス提供を構想しております。今後、生成 AI・AI エージェント関連には、大手企業が多額の投資を進めていくことが想定されており、その中で守りの生成 AI 領域で確固たるポジションを獲得できるように、スピード感を持って対応してまいりたいと考えております。

Q.スマートシティ事業のプロパティ・マネジメント領域について他社との優位性を知りたい

＜回答＞

プロパティ・マネジメント市場は参入障壁が低く、優位性を築くことは難しいと思われがちですが、デジタル化の余地が残る領域においては、今後社会のデジタル化が進む中で、IT を活用した確実性の高いオペレーションや、ユーザーに合わせたコミュニケーションによる利便性向上が大きな優位性に繋がると想定しております。

さらに、エルテスグループで考える安全なデジタル社会の実現に向けて、住空間のマネジメント業務を行っている知見は今後重要になると考えており、エルテスグループ全体の優位性を M&A を通じて獲得しているとも考えております。

Q.人材確保の面で、不動産営業、警備員の採用に関する取組状況を教えてほしい

＜回答＞

不動産営業、警備員の領域に留まらず、優秀な人材の獲得と育成は重要な経営課題であると認識しております。その中で不動産領域の営業人材については、管理職クラスの経験者を複数名確保し、計画通りに推移しております。さらに、デジタルを活用した営業人材の生産性の向上の余地があると考えております。また、警備員に関しても複数の採用施策を並行しつつ、女性警備員の活躍できる環境整備等にも取り組んでおります。一方で、デジタルを活用しつつ、一人あたりの生産性を高めることでの対策も講じてまいりたいと考えております。

以　上